

那加二東部



福祉だより

第57号

令和4年3月15日発行

編集・発行

各務原市社会福祉協議会

那加二東部地区



『変わりゆく自治会』

織田町自治会長 大橋貴司

私の住む那加織田町は、他の地域の自治会と同様に、少子高齢化が進んでいます。自治会の三人に一人が高齢者となり、子どもはとも少なく、三年後には子供会の存続も危うい状況です。この様に地域を取り巻く状況は、少子高齢化、核家族化そして独身者の増加が自治会活動に大きく影響しています。

また、住民からの自治会に対する要求も、多様化している一方で自治体内の世帯で、自治会へ加入しない方も増えてきています。変わりゆく自治会をしっかりと意識して、今後の自治会活動に取り組んでいかなくてはなりません。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、町内のイベントは何一つ実施できませんでした。福祉に関する活動も、日頃のご近所への声かけ程度であり、活動状況を紹介できることをしております。しかしながら、何もできなかった今

私の住む町から

今回は、織田町、信長町、住吉町、信長町三自治会を紹介します。



近年の新型コロナ対策で自治会主催の「春まつり」「納涼祭」等各イベントが中止となる中、織田信長公園の道路沿いにあるプランターの花植の入れ

令和三年度 信長町自治会活動について

信長町自治会長 杉浦重雄

年度を反省し、自治会活動が機能する事はなにか、地域活動に住民の皆さんに参加してもらおう大事さは自治会員共通の問題として意識できたと思います。コロナ禍を乗り越えて新たな視点を持って自治会で行うコミュニティの取り組を未来へ向かって永続的に活動していける事を期待したいと思います。



替えを年二回実施できました。ここは歩道に道路フェンスがなく、プランターは道路との境界になっており、小学生の通学路の安全確保及び自動車の、駐車防止として非常に重要な役割を果たしています。コロナ対策をしながら、町内の「ふれあい活動」として、小学生と保護者の小人数ではありましたが、楽しく作業ができました。また、「敬老の日」として近隣ケアと小学生の協力による、七十歳以上の高齢者に対して「記念品」+「小学生からのメッセージ文」をお渡ししました。自治会イベントの「高齢者とのつどい」が中止となった中で、高齢者とのコミュニケーションが図れたことが有意義でした。コロナ禍であり今後も自治会イベントの内容は時代に合わせ見直し、代わりに新しいイベントを考えたり、重点目標を決めて力を入れたりなど、柔軟な活動を続けていく必要があると考えます。

子供たちとの花壇、花の苗植え

住吉町自治会長 柿中 勇二

例年、花壇の苗植えは、役員さん達の仕事となっていました。市役所から配布の連絡が来ると、町内の方から軽トラを借りて、受け取りに行きます。それから、役員さんに招集をかけ日曜日に実施してきました。

今年の六月は少々事情が違いました。役員さんが小さい子ども連れで参加したのです。確か四〜五人いたと思います。これが見ていてとても可愛いのです。小さい手で苗をつかんで植えようとします。親の注意もなんのその、「私ができるもん！」の一点張り、親はそれに逆らえず、泥んこになって、とにかく楽しそうでした。



私はそれを見て気が付きました。自治会の融合は、子どもを介するのが一

番だということ。

そして十月二十四日の花の苗植えは、子ども会と共催という形にしてはどうかと考えました。子ども会に応援を求めて、子ども会の役員さんに図つてもらいました。子ども会もコロナ禍の中で、全ての行事が中止に追い込まれた経緯もありました。また、自治会の大人たちとの交流の場を求めていたことも幸いしました。子ども会の役員さんの賛同が得られたことで、少しずつ準備を始めました。最初に、子ども達の手を保護するための、手袋を探しました。ホームセンターでサンプルを三種類準備し、着けてもらって、大きさを確定しました。行動計画は、大人用と子ども用に分けて作成し、子ども会には周知な計画を立てて頂きました。

大まかな計画では、担当する部分を大人の部と子どもの部に分けました。当日、大人には、花壇の土作りを担



当していただき、子ども達が手で穴を掘れるくらいまで、柔らかくしてもらいました。その後は子供たちの順番で、花の苗を自由に植えてもらうことでした。配色、並べ方など、すべてを、彼らの考えに任せました。

子どもの人数は全部で二十人くらいになりました。子ども会の子は、小さい子の面倒をよく見てくれました。皆とても楽しそうでした。最後はご褒美のおやつです。これも子ども会が用意してくれました。子ども会のお姉さんやお兄さん達が、小さい子どもたちに、配ってくれて、見ていてとても頼もしく思いました。

信長町三丁目清掃活動

信長町三丁目自治会長 間宮 圭子

いわゆるコロナ禍になって約二年が経ちました。町内における活動も、多くのことが制限され、満足のゆく活動が行えない事が常になりつつあります。地域の清掃活動は、地域コミュニティの維持や住民が協議する重要な行事ですが、前述のように以前通り行うことはできません。

そのような中でも、個人的に善意で清掃していた方もみえ、町内会としては感謝に堪えません。誠にありがとうございます。

先日、感染拡大に配慮し、規模を縮小して、役員のみで清掃活動を行いました。会長からの感染防止に伴う注意

喚起の上、公民館や信三公園の枯れ葉清掃等スムーズに終えることができました。いつも通りとは行きませんが、集めたゴミをみて、心が晴れやかなる気持ちの良い活動となりました。まだまだ変異株等、日常でも不安と隣合わせの日々が続きますが、基本的な感染対策を徹底して、住民の方々の笑い声と共に町内活動が行える日が来ることを願います。

地域コミュニティ会議

十二月十日、『地域コミュニティ会議』が開催されました。二十人程の参加がありました。

最初、グループ毎に「この地域で出来るような事・やってみたいこと」を他の地域の事例を参考に話し合いました。各グループの発表を受けて賛同の多かった『各務原・ドローン』が今後の行動計画に盛り込まれる事になりました。ドローンの操作方法の講習会や、上空から撮影した写真や映像見ながらこの地域の変化を語り合う等、多世代交流も期待されます。

